

マルコム X、米国 (PART 2)

5.0

明:

最も出したアフリカ系米国人革命家の一人による、真のイスラムの。そしてそれがいかに人を解するかについて。Part 2: 生まれ変わった男とその新たなるメッセージ。

目: [事新改宗者ムスリムの逸 著名人](#)

より: ユ スフ スィッディ キ

日 06 Dec 2009

集日 12 Dec 2009

唯一神の元における唯一の人

彼は巡礼の最中、ニューヨークハレムに彼が立した体「ムスリムモスク」の助手へ、何通かの手紙をきました。彼はこの手紙をコピーし、道に配布するよう指示しました。

"私は、アブラハム、ムハンマド、そして典に出て来る全ての言者たちの家であり、またこの古代より存する地において、あらゆる肌の色の人々によって踏かれている待、そして倒的な同胞の精神をこれまで目の当たりにしたことがなかった。この一、私が身の回りから受けて来たあらゆる人々の人々による切さには、すっかり言葉を失ってしまい、魅せられてしまった…

“あなたは私の口からこういった言葉が出て来ることに くだらう。しかしこの巡礼の中で私が 来て来たこと、そして して来たことは、これまでの私の思考パターンを大きく え、また以前の持 の一部を破 させるものだった。それは私にとって しいことではなかったのである。私自身が抱えていた 信にも わらず、私は常に事 のみを捉え、新しい や知 を得ると共に、人生において を直 することに努めてきた。私はいかなる形の真 の知的探

求においても求められる柔 さ、つまり常に心を いていることを心がけて来たのである。

“ムスリム世界でのこの11日、私はムスリム同胞たちと共に同じ神に祈りつつ、同じ皿から食べ、同じ器から み、同じ寝床で寝た。ある者たちの目の色は真っ青であり、 の色は金 であり、肌の色は白のなかの真っ白であった。そして彼ら“白人”ムスリムたちの言、ふるまい、行 からは、ナイジェリアやス ダン、ガ ナなどからのアフリカ人ムスリムと同じ真 さが感じられたのだ。

“我々は本当に同一（の兄弟）なのだ—
なぜなら彼らの唯一神への信仰は、彼らの心から、行 から、そして 度から、いわゆる“白人性”が取り除かれていたからである。

“こうして私は、もしアメリカ白人が神の唯一性を めるのであれば、人 の唯一性も めることが出来るのではないかと考えた。そして彼らの肌の色における“相”による他者の や妨害、危害などもなくなるのではないかと。

“人 差 はまるで末期癌の症状のようにアメリカを んでいる。いわゆる白人“キリスト教徒”アメリカ人の心は、そういった致命的 にして有 であると 明された解 策を受け入れるべきである。もしかしたら、それは差し迫った惨事から — でアメリカを救うかもしれない。人 差 による惨事はドイツにおいて、ドイツ人自身を破 しているのではないかと。

“私はハッジにおいて、何に最も感 したかを かれた…私はそれにこう答えた：“それは同胞 である！世界中から全ての人、あらゆる肌の色をした人々が集い、一つになることである！それは私に唯一神の力を 明した…皆は一つになって食べ、一つになって寝た。巡礼の空 はその全てにおいて、唯一神の元の唯一の人 を したのだ。”

こうしてマルコムはアル＝ハッジ マ リク アル＝シャバズと改名し、巡礼から 国しました。彼は新たな精神的洞察力を携え、心燃やしていました。彼の中で民族主 の公民 家による 争が、国 主、そして人道主 の 争に 化したのです。

巡礼

白人者たちは、アル=ハッジ マ リクが彼らに してどう思っているのか知るために取材を望みました。彼らにとっては、い年月に渡って彼らに していた人物が、突然身を翻して彼らを兄弟と呼ぶことは信じ いたことだったのです。これらの人々にアル=ハッジ マ リクはこう言いました：

“あなたは私に ‘あなたは白人を兄弟と めるのか?’ と いているのですか? 私はムスリム世界で何を 、何を感じ、いかに私の思考が げられたかを きました。私が いた通り、私はそこで白い肌のムスリムと真の同胞 を分かち合い、彼らは一瞬たりとも私に のムスリムに する人 や肌の色に する意 を持たせなかったのです。

“巡礼は私の 野を げました。それは私に新しい思考という祝福を与えたのです。 地で の2 において、私はここアメリカでの39年 で一度も ることの出来なかったものを ました。私は全ての人 、肌の色 – 青い目をした金 から い肌のアフリカ人まで – が真の同胞 を持っていると感じました。彼らは – されていたのです! 一つとして生きていたのです! 一つになって崇 していたのです! そこには「人 的分 主 者」や「自由主 者」はいませんでした; それどころか彼らはそのような言 の意味すら知らないでしよ う。

“その通り、私は 去に全ての白人をまとめて非 しました。しかし私はもう二度とそのような罪を犯さないでしょう。というのも私は今、一部の白人たちは真に であり、人 の同胞となる能力があることを知っているからです。全ての白人を一括した非 は、全 での 人を一括した白人の非 と等しく っていることを、真のイスラ ムは私に教えてくれたのです。”

彼を指 者とした多くの 人たちに し、アル=ハッジ マ リクは新しいメッセ ジを きました。それは彼がネ ション オブ イスラ ム教 で いていたものとは正反 のものでした：

“真のイスラームは、人の家族、そして人社会が完全であるには、の宗教的、政治的、的、精神的、そして人的といった全ての要素、または性が必要であることを教えてくれました。”

“私はハレム通りの者たちに、こう言いました。全ての造主である唯一の神の前に人がうこそ、人は初めて"平安"に近づくことが出来るのだと…これまでに、そのようなことにするはあちこちでかれましたが、それにする行はほんの少ししかられませんでした。”

危な存在

アル=ハッジマリクの新しい普遍的メッセージはアメリカの支配にとって、受け入れいでした。彼は人大だけでなく、あらゆる人と肌の色をした知的にも受け入れられたのです。彼はプレスにより、常々“暴力を主する者”、“争主者”として魔のごとくわられていましたが、にはその地においてマティンルサキング博士とのみ寄りを見せていたのです：

“目的は常に一でした。それにするアプロチの仕方においては、マティンルサキング博士による、白人の残忍性とにする防な人を的に表する非暴力行と私のそれとにいはありました。そしてこの国の今日の人情を考すると、人の取りみにおける端、つまり‘非暴力’のキング博士、または‘暴力的’な私のどちらが致命的な惨事をもたらすか、はっきりしたことはにも分からないのです。”

アル=ハッジマリクは、自身が々な的であったことを熟知していました。それにもわらず、彼は自分が言しなければならないと感じたことの言を恐れませんでした。彼のの最において、まるで自らの碑文を残すかのようにこう述べています：

“社会を革しようとした人々を、社会が抹していったことを私は知っている。そしてもし私がアメリカの体にめて有害な人差という癌の破を押し留めることの出来る、意ある真を少しでも暴き、そこに光をもたらして死ぬことが出来たのであれば、それら

は全て神のお である。その 程における ちは私自身によるものなのだ。”

マルコム Xの

アル=ハッジ マ リクは暗 の 的になっていることを知っていましたが、彼は警察の保 を 求めることなくその事 を受け止めていました。1965年2月21日、ニュ ヨ クのとあるホテルでの の 中、彼は3人の 人によって されました。40 になる3ヶ月前のことでした。この 暗 にネ ション オブ イスラ ム教 が何らかの形で わっていたのは明白ですが、多くの人々は 数の の を疑っており、反 人 の 向があることで知られるFBIも暗 に わっていることが示 唆されています。私たちがアル=ハッジ マ リク、そして1960年代初 の他の指 者たちの 暗 の背 を知ることは永 に出来ないかもしれません。

マルコム Xの人生は、多くのアメリカ人に多くの重要な影 を及ぼしました。アル=ハッ ジ マ リクの死により、アフリカ系アメリカ人の自らのイスラ ム的原点に する 心は非常に高まりました。マルコムの の著者であるアレックス ヘイリ はその 、アフリカ人ムス リム家族の奴 を描いた小 「ル ツ」を著しました。アフリカ系アメリカ人はますますイ スラ ムに改宗し、ムスリムの名前を取り入れ、アフリカ文化を探求しています。そし てマルコム Xへの 心は、スパイク リ の映画「X」により 点に しました。アル=ハッジ マ リクは、アフリカ系アメリカ人、ムスリム、そして一般的アメリカ人の りの源泉です 。彼のメッセ ジは、以下のようにごくシンプルで明 です。

“私はいかなる形の差 、分 も信じない。私はイスラ ムを信じている。私はムスリムな のだ。”

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/89>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。